



栗道第146号
平成19年 5月 2日

国土交通省道路局長 様

栗東市長 國松正一



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について(回答)

表題のことについて、平成19年4月2日付け国道企第114号にて依頼が
ありましたが、別紙のとおり回答いたしますので、よろしくご査収願います。

担	滋賀県栗東市
	建設部 道路・河川課
当	TEL 077-551-0120

中期的な計画の作成にあたっての意見等

滋賀県栗東市

<重点化を進める上で特に優先度の高い政策>

滋賀県大津湖南地域は、古来より日本を縦貫する道路網の頸部に位置し、交通の要衝であります。また、未整備区間があり、有機的に道路網が構築されていないことから、交通渋滞による産業経済活動に大きな損失を及ぼし、また交通事故等の深刻な問題が生じています。さらには、幹線道路での渋滞を起因として生活道路への混入など日常生活に大きな影響を及ぼしています。従って、一体的かつ有機的に機能する道路交通網を早急に形成する必要があります。

以上のことから、今後取り組むべき優先度の高い道路政策として、以下の内容を提言します。

- 1) 渋滞対策としての抜本的なバイパス整備や、少額投資で効果の上がる交差点改良の実施
- 2) 地域活性化や物流のため、周辺市の既存の産業拠点あるいは今後新名神を起爆点として見込める産業施設帯等を結ぶ道路の整備
- 3) 通勤や通院、買い物など日常生活を支える生活幹線道路の整備
- 4) 国道・主要地方道・県道にいたる歩道設置率が低いことから、特に通学路に供している区間の交通事故対策としての歩道の設置

<効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと>

道路政策を展開する上で、コスト削減や、効率化を徹底することは重要な要素であると考えており、以下の内容を提言します。

- 1) 計画路線は将来の交通量配分等に基づき整備されるものであるが、交通量配分の時点修正などを随時あるいは定期的に加え、事業の開始前や途中段階で必要性をチェックするなど事業ごとの評価の徹底
- 2) 事業実施段階で反対を表明される場合があることから、早い段階で住民の意見等が充分反映されるような取り組みが必要

<道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見>

滋賀県は、鉄道網が発達していないことから、自動車交通に頼らざるを得ない状況があります。また、近畿圏・中部圏および北陸圏の中心に存し、特に大津湖南地域にあっては、古来より日本を縦貫する道路網の頸部に位置することから、通過交通が多いことに加え、近年の人口増に伴う発生交通量の増大が続いています。しかしながら、道路整備の遅れから、交通混雑・交通事故等の深刻な問題が生じています。

こうした状況から、道路整備に関し、既に整備が一定済んだ地域と、整備が遅れている地域が同じスタートラインに立って、今後の道路整備の中期施策を論ずることは、格差の温存あるいは助長に繋がるのではと危惧しています。特に、滋賀県は真に必要とされる道路の整備が遅れているにもかかわらず、都道府県別道路関係補助事業費が全国第46位で都道府県平均の3分の1程度であります。このような格差を是正するため、現時点で整備が遅れている状況を定量的に判断し、補正補完することを前提に中期あるいは将来計画を立てるべきではと考えます。

栗東市の道路整備状況は、都市計画道路89kmのうち整備済みは約50%であり、まだ道半ばです。栗東市周辺域を含むエリアで具体的に整備を必要とする路線として、抜本的な渋滞対策として、国道1号バイパス(栗東水口道路・栗東瀬田バイパス・大津山科バイパス)、国道8号バイパス(野洲栗東バイパス)、地域間道路として大津湖南幹線(主要地方道草津守山線)、野洲川幹線(主要地方道守山栗東線・栗東信楽線)、山手幹線(主要地方道大津能登川長浜線)、歩道もなく交通量も多いことから危険な状況にある路線として主要地方道栗東信楽線、県道片岡栗東線、県道六地藏草津線バイパス等があげられます。こうした未整備路線があることから集落内の生活道路への進入を生むなど悪循環の様相を呈しているのが現状であります。一部区間では少額投資の交差点改良を実施することで渋滞を緩和できる箇所もあります。

平成17年5月の東洋経済新報社調査の「全国すみよさランキング」で栗東市は1位の評価をいただきましたが、国道をはじめ県道、市道の交通混雑緩和のための道路整備や通学路等の交通安全の確保、交差点改良、生活道路の改善、道路網の確保等について多くの意見が市民の皆さんから出され、安全で快適な道路交通の確保と豊かな生活環境を実現するための道路整備が求められています。

市民の誰もが安心・安全に暮らすことのできる「風格都市栗東」の創造を目指し、国道等の幹線道路をはじめ、県道や市道など身近な生活道路の整備に至るまで、交通基盤の充実したまちづくりを進めたいと考えています。